



企業名：たらぎたんぼのチカラ研究会
所在地：熊本県球磨郡多良木町多良木3702
事業者：尾方 伸一郎
設立：2017年

米農家チームが、まちの歴史をつなぐ。

伴走支援デザイナー：武永デザイン事務所・武永茂久



アイデンティティ/事業を突き動かす内発的動機

15年前に生まれ育った多良木町に戻り、農業の仕事に就いた尾方氏。もともと美容師や理容師に薬剤の営業をしていましたが、インターネットで仕入れられる時代になり限界を感じたそうです。実家に戻り、2009年に「農業組合法人多良木のびる」の設立に参加し、改めて自然豊かな環境と集落に住んでいる方の温かさで心が満たされていく一方で、高齢化や過疎化、後継者不足など、農家のさまざまな課題に直面しました。それらの課題を乗り越え、農業や米作りを未来へつなげるために、11軒の農家が集まり、町と連携して取り組む「たらぎたんぼのチカラ研究会」を立ち上げることに。九州の米の味を競う食味コンクールで3連覇を達成したブランド米を通じて、多良木町の文化・風土・伝統を知ってもらい、町の誇りとして残していきたいと考えています。



たらぎたんぼのチカラ研究会ののぼり

ビジョン

多良木町をさらに深掘りして、お米作りを磨き上げ、地域住民をはじめ沢山のひと々に多良木町のお米を届けること。今から15年後、自分たちの子どもが成人を迎える頃には、多良木町のみならず日本の米作りのモデルとなることを目指しています。また、米作りで得た知識や経験を他の農作物にも応用し、多良木町の農業の旗振り役になることが今後のビジョンです。

強みや特徴

多良木町は日本三大急流の1つ「球磨川」の清流や山々の恵みを受け、良質のお米が収穫できる産地です。多良木町の農家たちは、協力して品質の高いブランド米の開発に取り組んでいます。栽培方法を統一し、厳しい基準をクリアしたお米だけが、たらぎたんぼのチカラ研究会の名前を冠することができます。メンバー同士で切磋琢磨し、おいしい米作りを追求しています。



多良木町の風景

経営課題

実際に農業の現場で働き、多良木町の農業を盛り上げたいという同じ志を持つ様々な世代の農家と出会った尾方氏。多良木町にはこれまでに培った長い歴史やストーリーがあり、個人人の農業ではなく多良木町の農業を、自分たちがしっかりと受け継ぎ次の世代に残していくために、これから何を指すのか、どのようなモチベーションで向き合うのか、少しずつ異なる各自の意見を整理しながら集約し、意思を統一する必要がありました。その際に意識したことは、今この瞬間だけではなく、将来を見据えること。例えば、今後の市町村合併によって町の名前がなくなるような場合でも、この場所に「多良木」という名前が残るように、お米のブランド力を高めたいと思っていました。そんな時、多良木町のブランド化事業に参画していた、武永デザイン事務所の武永氏と出会います。

デザイン経営での解決策

「一農家が育てるお米だけでは展開が難しい」と語る尾方氏。だからこそ、地域が展開する農業のフラッグシップの必要性を感じ、たらぎ田んぼのチカラ研究会を立ち上げました。武永氏はパッケージやシンボルマークをデザインする際に、「関わっている人」と「地域の歴史」の繋がりを十分に知る必要があると考え、研究会のメンバーに向けてヒアリングや意見交換を行います。ベテランから若手まで様々な世代の意見や想いを集約し、多良木の農業のために何が重要なのかを検討するプロセスを共有したことで、メンバーたちが誇りを感じるパッケージやシンボルマークが誕生したのみならず、メンバー同士が研鑽し続けることの大切さに気付いたそうです。デザイナー武永氏の伴走によって生まれた、メンバー全員の共通の目標は、たらぎ田んぼのチカラ研究会の原動力になっています。

アウトプット



たらぎ田んぼのチカラ研究会のメンバー



メンバー同士で研鑽している風景

これから

今この瞬間だけではなく、将来を見据えることを意識している尾方氏。事業を次の世代へバトンタッチする時のことを考えて米作りや経営に取り組んでいるといいます。現在、小学校の授業で多良木の農業の歴史を伝える取組や、たらぎ田んぼのチカラ研究会のお米を学校給食で食べてもらう取組を積極的に行っています。他の地域との違いを、子どもたちに知識や味覚で体験してもらうことが、まちの未来を明るくすることにつながっていると信じ、今日も米作りに励んでいます。